

(様式第10)

令和6年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 防衛大臣 中谷 元
(公印省略)

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号
氏名	防衛大臣 中谷 元

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

防衛医科大学校病院

3 所在の場所

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3丁目2番地
電話(04)2995-1511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
アレルギー疾患内科またはアレルギー科及びリウマチ科の診療は、膠原病内科において提供している。							

1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」

(注) 「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	膠原病内科	2	抗加齢血管内科	3	肝・胆・膵外科	4	形成外科	5	腫瘍化学療法部
6	緩和ケア室	7	リハビリテーション部	8	総合臨床部	9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
36	9	0	0	560	605	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	217	6	223
歯科医師	6	0.1	6.4
薬剤師	19	1	20
保健師	0	0	0
助産師	13	0.6	13.6
看護師	417	28.9	445.9
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	0	3	3

職種	員数
看護補助者	26.2
理学療法士	4
作業療法士	2
視能訓練士	3.6
義肢装具士	0
臨床工学士	12.7
栄養士	3
歯科技工士	2
診療放射線技師	26.5

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	36.6
	衛生検査技師	0
	その他	36.6
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	2	
その他の技術員	0	
事務職員	64.5	
その他の職員	18.4	

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	34	眼科専門医	7
外科専門医	27	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	8	放射線科専門医	12
小児科専門医	25	脳神経外科専門医	22
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	13	救急科専門医	8
		合計	215

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (塩谷彰浩) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	279 人	3 人	282 人
1日当たり平均外来患者数	1,059.9 人	42.5 人	1,102.5 人
1日当たり平均調剤数	750		剤
必要医師数	87.9		人
必要歯科医師数	2.6		人
必要薬剤師数	9.4		人
必要(准)看護師数	177.8		人

1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	203.2 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	11 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 52.3 m ² [移動式の場合] 台数 10 台		病床数	4 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名			37.8 m ²	
化学検査室	252 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置	
細菌検査室	270 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO ₂ 培養器	
病理検査室	252 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置	
病理解剖室	164 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釈装置、超低温槽	
研究室	18.861 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム	
講義室	5,435 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員 1,200 人
図書室	3,023 m ²	鉄筋コンクリート	室数	8 室	蔵書数 約19万 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	115.4	%	逆紹介率	66.2	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		15,228		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,437		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,960		人
	D: 初診の患者の数		15,751		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
根本 孝一	医療法人藤原会 藤原医院顧問	○	医療に関する見識を有する者	無	1
島戸 圭輔	二番町法律事務所 (弁護士)		法律に関する見識を有する者	無	1
安達 秀夫	所沢市薬剤師会 顧問		医療に関する見識を有する者	無	1
大館 千歳	国立障害者リハビリテー ションセンター病院 看護部長		医療に関する見識を有する者	無	1
宮田 義久	一般財団法人自衛隊援 護協会職員		医療を受ける者	無	2

- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
防衛医科大学校病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	クローンカイト・カナダ症候群の病態解明および治療法探索の研究	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 当該疾患の病態や治療効果予測因子、予後因子を解明し、難治性患者に対する最適な治療法を確立することを目的とする。			
医療技術名	多色細胞分析装置を用いたリンパ球分化およびシグナル伝達異常解析	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 体外診断用機器である多色細胞分析装置(BD FACSLyric)を用いたリンパ球分画の解析方法は確立している。今後、体外診断用試薬を用いて、それらの再現性を確認し、リンパ球分化およびシグナル伝達異常解析系を立ち上げていく。			
医療技術名	急性白血球の遺伝子変異検査	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 急性白血病患者に対しELNが提唱する遺伝子異常解析を網羅的に行い、より精度の高い診断および予後層別化を行うことで治療法の選択に寄与し、急性白血病患者の予後向上を目指すものである。			
医療技術名	AIを用いたホルモン陽性乳癌の悪性度診断の検討	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 ホルモン陽性乳癌に対しては「抗ホルモン療法(内分泌療法)」や「化学療法(抗がん剤治療)」などが存在する。適切な術後補助療法を行うことは、手術後のがんの再発防止のために非常に重要なことである。当院における過去の478例のホルモン陽性乳癌症例の検体を比較検討することで遺伝子検査を行わずに予後予測が有用であるか検討する。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	186

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	62	アジソン病	1
2	筋萎縮性側索硬化症	14	63	サルコイドーシス	89
3	脊髄性筋萎縮症	3	64	特発性間質性肺炎	20
4	進行性核上性麻痺	13	65	肺動脈性肺高血圧症	26
5	パーキンソン病	139	66	慢性血栓性肺高血圧症	10
6	大脳皮質基底核変性症	4	67	網膜色素変性症	11
7	シャルコー・マリー・トウス病	2	68	バッド・キアリ症候群	1
8	重症筋無力症	89	69	特発性門脈圧亢進症	2
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	83	70	原発性胆汁性胆管炎	23
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	20	71	原発性硬化性胆管炎	2
11	封入体筋炎	4	72	自己免疫性肝炎	36
12	多系統萎縮症	7	73	クローン病	187
13	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	27	74	潰瘍性大腸炎	420
14	ミトコンドリア病	3	75	好酸球性消化管疾患	4
15	もやもや病	12	76	若年性特発性関節炎	4
16	プリオン病	1	77	先天性ミオパチー	2
17	特発性基底核石灰化症	2	78	筋ジストロフィー	5
18	全身性アミロイドーシス	36	79	脊髄空洞症	1
19	神経線維腫症	3	80	前頭側頭葉変性症	1
20	天疱瘡	34	81	痙攣重積型(二相性)急性脳症	3
21	表皮水疱症	2	82	神経細胞移動異常症	1
22	膿疱性乾癬(汎発型)	5	83	ドラベ症候群	1
23	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	84	レノックス・ガストー症候群	1
24	中毒性表皮壊死症	1	85	ウエスト症候群	2
25	高動脈炎	12	86	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	2
26	巨細胞性動脈炎	7	87	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
27	結節性多発動脈炎	4	88	結節性硬化症	1
28	顕微鏡的多発血管炎	33	89	家族性良性慢性天疱瘡	1
29	多発血管炎性肉芽腫症	19	90	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	38
30	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	16	91	特発性後天性全身性無汗症	12
31	悪性関節リウマチ	3	92	マルファン症候群	2
32	バージャー病	1	93	ウィルソン病	1
33	全身性エリテマトーデス	144	94	歌舞伎症候群	1
34	皮膚筋炎／多発性筋炎	78	95	プラダー・ウィリ症候群	1
35	全身性強皮症	32	96	三尖弁閉鎖症	2
36	混合性結合組織病	19	97	ファロー四徴症	3
37	シェーグレン症候群	84	98	両大血管右室起始症	3
38	成人スチル病	11	99	急速進行性糸球体腎炎	34
39	再発性多発軟骨炎	4	100	一次性ネフローゼ症候群	143
40	ベーチェット病	65	101	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	5
41	特発性拡張型心筋症	25	102	オスラー病	5
42	肥大型心筋症	16	103	閉塞性細気管支炎	2
43	再生不良性貧血	26	104	副甲状腺機能低下症	6
44	自己免疫性溶血性貧血	4	105	尿素サイクル異常症	1
45	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	106	ポルフィリン症	1
46	特発性血小板減少性紫斑病	42	107	シトステロール血症	1
47	血栓性血小板減少性紫斑病	4	108	慢性再発性多発性骨髄炎	1
48	原発性免疫不全症候群	23	109	強直性脊椎炎	2
49	IgA腎症	42	110	後天性赤芽球癆	6
50	多発性嚢胞腎	28	111	ファンコニ貧血	1
51	黄色靱帯骨化症	8	112	遺伝性鉄芽球性貧血	1
52	後縦靱帯骨化症	39	113	先天性横隔膜ヘルニア	1
53	広範脊柱管狭窄症	2	114	IgG4関連疾患	26
54	特発性大腿骨頭壊死症	20	115	黄斑ジストロフィー	2
55	下垂体性ADH分泌異常症	9	116	レーベル遺伝性視神経症	1
56	下垂体性PRL分泌亢進症	4	117	アッシャー症候群	1
57	クッシング病	3	118	好酸球性副鼻腔炎	21
58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12	119	先天異常症候群	1
59	下垂体前葉機能低下症	17	120	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
60	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1	121	特発性多中心性キャスルマン病	12
61	先天性副腎皮質酵素欠損症	1			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	121
合計患者数(人)	2,566

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・初診料(歯科)の注1に掲げる基準	・精神疾患診療体制加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・地域医療体制確保加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・救命救急入院料2
・特定機能病院入院基本料 一般 7対1入院基本料	・特定集中治療室管理料3
・特定機能病院入院基本料 精神 13対1入院基本料	・特定集中治療室管理料3(早期離床・リハビリテーション加算)
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2
・救急医療管理加算	・栄養サポートチーム加算
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・データ提出加算	・
・入退院支援加算2 告示注7 入院時支援加算	・
・認知症ケア加算2	・
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病合併症管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料イ	・神経学的検査
・がん患者指導管理料ロ	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料ハ	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料ニ	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来緩和ケア管理料	・画像診断管理加算1
・婦人科特定疾患治療管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・下肢創傷処置管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来放射線照射診療料	・外来化学療法加算1
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・無菌製剤処理料
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・がん治療連携計画策定料	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・薬剤管理指導料	・がん患者リハビリテーション料
・医療機器安全管理料1	・透析液水質確保加算
・医療機器安全管理料2	・センチネルリンパ節加算
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・遺伝学的検査	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体、腫瘍細胞を検体)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・椎間板内酵素注入療法
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)
・国際標準検査管理加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・遺伝カウンセリング加算	・網膜再建術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・同種死体腎移植術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・生体腎移植術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血管理料Ⅱ
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・自己生体組織接着剤作成術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下肝切除術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膣体尾部腫瘍切除術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・1回線量増加加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・入院時食事療養費(Ⅰ)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
全ゲノム解析と患者疫学情報による病原体伝播経路推定法の確立とその臨床応用	藤倉雄二	病院 内科	200,000	補 委	
近赤外光による非接触性・非侵襲的粘膜投与型ワクチン増強技術の研究	君塚 善文	内科学	16,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
発達段階のストレス暴露がPTSDのストレス応答制御機構に与えるメカニズムの解明	戸田裕之	精神科学講座	3,400,000	補 委	文科省
高悪性度大腸癌に対するがん促進性CAFを標的とした新規治療法開発の基礎研究	上野 秀樹	外科学講座1	6,700,000	補 委	文科省 科研費
癌関連線維芽細胞で発現するADAM9を標的とした治療法構築と新規標的分子の探索	望月 早月	病院 外科1	800,000	補 委	文科省 科研費
遠位弓部大動脈瘤に対するopen stent graftを用いた弓部大動脈置換術の遠隔期成績	堤 浩二	病院 外科2	300,000	補 委	Abott
エネルギー代謝における思春期特発性側弯症関連遺伝子LBX1の機能解析	北村 和也	整形外科科学講座	1,000,000	補 委	文科省 科研費
骨格筋萎縮・変性における間葉系前駆細胞の機能解析	堀内 圭輔	整形外科科学講座	1,400,000	補 委	文科省 科研費
喉頭機能回復を目指した反回神経障害への新規治療戦略の開発	荒木 幸仁	耳鼻咽喉科学	1,100,000	補 委	文科省 科研費
耳鳴に対する分子遺伝学的解析を基盤とした新規薬物治療の開発	水足 邦雄	病院 耳鼻咽喉科	1,000,000	補 委	文科省 科研費
より効果的な腫瘍溶解センダイウイルス療法の開発と臨床応用へ向けた発展	塩谷 彰浩	病院 耳鼻咽喉科	1,000,000	補 委	文科省 科研費
超高齢社会における嚥下障害に対する知覚機能改善を目指した新規治療法の開発	宇野 光祐	病院 耳鼻咽喉科	300,000	補 委	文科省 科研費
経口的喉頭機能温存手術後の音声・嚥下機能障害予防の確立	谷合 信一	病院 耳鼻咽喉科	1,200,000	補 委	文科省 科研費
糖尿病網膜症におけるIL-17Aを介した炎症性VEGF産生のメカニズム解析	竹内 大	眼科学講座	1,169,454	補 委	文科省 科研費
皮膚微小環境と臓器免疫とクロストークからみた痒疹の病態解析	佐藤 貴浩	皮膚科学	600,000	補 委	文科省 科研費
アトピー性皮膚炎の痒み過発生病機序の解明:IL-31と好塩球による末梢神経変容	端本 宇志	皮膚科学	1,000,000	補 委	文科省 科研費
NSG-HiCEP法を用いた新規腎癌特異的バイオマーカーの同定と測定法の開発	伊藤 敬一	泌尿器科	1,100,000	補 委	文科省 科研費
局所陰圧閉鎖療法における上皮間葉転換に関する基礎研究	土屋 壮登	病院 形成外科	1,000,000	補 委	公益財団法人SBC医学振興財団

頭部爆傷における即死や高次脳機能障害発生のメカニズムの解明	瀬野 宗一郎	病院 救急部	1,200,000	補委	文科省 科研費
高分解能24時間心電図による心臓突然死予測スコアリングモデルの樹立	橋本 賢一	病院 総合臨床部	700,000	補委	文科省 科研費
				補委	
				補委	

20件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kawai A, Nagatomo Y, Yukino- Iwashita M et al.	循環器内科	β 1 Adrenergic Receptor Autoantibodies and IgG Subclasses: Current Status and Unsolved Issues	J Cardiovasc Dev Dis . 2023 Sep 10;10(9):390.	Review
2	Himeno M, Nagatomo Y, Miyachi A et al.	循環器内科	D-Dimer beyond Diagnosis of Pulmonary Embolism: Its Implication for Long- Term Prognosis in Cardio-Oncology Era	J Pers Med . 2023 Jan 27;13(2):226.	Original Article
3	Osaki A, Kagami K, Ishinoda Y et al.	循環器内科	Reactive Oxygen Species in the Aorta and Perivascular Adipose Tissue Precedes Endothelial Dysfunction in the Aorta of Mice with a High-Fat High-Sucrose Diet and Additional Factors	Int J Mol Sci . 2023 Mar 30;24(7):6486.	Original Article
4	Toya T, Nagatomo Y, Ikegami Y et al.	循環器内科	Coronary microvascular dysfunction in heart failure patients.	Front Cardiovasc Med . 2023 Jun 2;10:1153994.	Review
5	Ishinoda Y, Masaki N, Hitomi Y et al.	内分泌内科	A Low Arginine/Ornithine Ratio is Associated with Long-Term Cardiovascular Mortality.	J Atheroscler Thromb . 2023 Oct 1;30(10):1364- 1375.	Original Article
6	Ayami Naito, Masaru Obokata, Kazuki Kagami et al	循環器内科	Contributions of anemia to exercise intolerance in heart failure with preserved ejection fraction-An exercise stress echocardiographic study	Int J Cardiol Heart Vasc . 2023 Aug 20;48:101255.	Original Article
7	Hitomi Y, Nagatomo Y, Yukino M. et al	循環器内科	Characterization of tolvaptan response and its impact on the outcome for patients with heart failure	Journal of cardiology 78(4):p.285-293, 2021.10	Original Article

8	Masaki Nobuyuki, Ido Yasuo, Yamashita Yohei. et al	集中治療部	Endothelial Insulin Resistance of Freshly Isolated Arterial Endothelial Cells From Radial Sheaths in Patients With Suspected Coronary Artery Disease.	J Am Heart Assoc. 8:p.e010816- doi: 10.1161/JAHA.118.0, 2019.03	Original Article
9	Nobuyuki Masaki, Takeshi Adachi, Hirofumi Tomiyama et al.	集中治療部	Reduced reactive hyperemia of the brachial artery in diabetic patients assessed by repeated measurements: The FMD-J B study	Physiol Rep . 2023 Aug;11(16):e15786.	Original Article
10	Masaki Nobuyuki, Nanba Takayuki, Adachi Takeshi. et al	集中治療部	Chapter 50: Insulin Resistance and CAVI p.301-306 Cardio-Ankle Vascular Index Overview & Clinical Application(CAVI から眺める血管機能学)	Japanese Society for Vascular Health, 2021.10	Others
11	Kazuki Kagami, Masaru Obokata, Tomonari Harada et al.	循環器内科	Incremental diagnostic value of post-exercise lung congestion in heart failure with preserved ejection fraction	Eur Heart J Cardiovasc Imaging . 2023 Apr 24;24(5):553-561.	Letter
12	Nagatomo Y, Yoshizawa S, Oya Y, et al.	循環器内科	Anti-mitochondrial antibody-mediated myopathy with cardiac involvement: reply	Eur Heart J Case Rep . 2023 Jul 25;7(8):ytad348.	Letter
13	Kazuki Kagami, Masaru Obokata, Tomonari Harada et al.	循環器内科	Effects of Mineralocorticoid Receptor Antagonists in Early-Stage Heart Failure With Preserved Ejection Fraction	CJC Open . 2023 Mar 8;5(5):380-391.	Original Article
14	Goto H, Shoda S, Nakashima et al.,	腎臓内分泌内科	Early biomarkers for kidney injury in heat-related illness patients: a prospective observational study at Japanese Self-Defense Force Fujii Hospital.	Nephrol Dial Transplant. 38:644-654, 2023.	Original Article
15	Goto H, Nakashima M, Nakashima H et al.	腎臓内分泌内科	Heat acclimation ameliorated heat stress-induced acute kidney injury and prevented changes in kidney macrophages and fibrosis.	Am J Physiol Renal Physiol. 32:F243-F254, 2022	Original Article

16	Ito S, Nakashima M, Ishikiriyama Tet al.	腎臓内分泌内科	Effects of L- Carnitine Treatment on Kidney Mitochondria and Macrophages in Mice with Diabetic Nephropathy.	Kidney Blood Press Res. 47:277- 290. 2022.	Original Article
17	Yuki Ishinoda, Asuka Uto, Yoshifumi Ya mada, et al.	腎臓内分泌内科	An elderly patient with 17 α -hydroxylase deficiency misdiagnosed as primary aldosteronism: a case report	BMC Endocrine Disorders. 2022 Dec (オンライン)	Case report
18	Yuki Ishinoda, Asuka Uto, Hitomi Meshino. et al.	防衛医科大学校病院糖尿病 内分泌内科	Bowel perforation associated with Cushing's disease: a case report with literature review	Endocrine Journal. 2023 Sep; 70: 933-9	Case report
19	Ai Kobayashi, Yuki Ishinoda, Asuka Uto. et al.	防衛医科大学校病院糖尿病 内分泌内科	A Case of Pheochromocytoma With Coagulation Necrosis Due to Hypertensive Crisis Aggravated by Contrast-Enhanced CT Scan and Negative 123I- Metaiodobenzylguanidin e (MIBG) Scintigraphy	Cureus. 2024 Mar; 16: e56878	Case report
20	Maki Y, Miyata J, Suematsu R et al.	感染症・呼吸器内科	Principal component analysis of clinical characteristics of pulmonary sarcoidosis with or without extrapulmonary lesions: a single-center observational study in Japan.	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis. 2024 Mar 26;41(1):e2024022.	Original Article
21	Tanigaki T, Ogawa T, Nomura S et al.	感染症・呼吸器内科	Severe Atelectasis due to Aspirated Valproic Acid Tablet.	Case Rep Pulmonol. 2024 Mar 18;2024:6650141.	Case report
22	Nishimura M, Ogawa T, Tanigaki T et al.	感染症・呼吸器内科	Massive pleural effusion in porous diaphragm syndrome due to lymphatic leakage after pelvic surgery.	Respirol Case Rep. 2024 Mar 25;12(3):e01338.	Case report
23	Nishimura M, Kimizuka Y, Ogawa T et al.	感染症・呼吸器内科	IgG4-related retroperitoneal fibrosis induced by nivolumab and ipilimumab in a patient with non-small cell lung cancer: A case report.	Thorac Cancer. 2024 Jan;15(1):104-107.	Case report

24	Maruyama C, Sato A, Nishikata Y, Nakazawa M, Shijo Y, Kameyama N, Umezawa A, Ayaori M, Waki M, Ikewaki K, Nishitani A, Teramoto T.	抗加齡血管内科	Effects of Nutrition Education Program for the Japan Diet on Serum Phospholipid Fatty Acid Compositions in Patients with Dyslipidemia: Re-analysis of Data from a Previous Randomized Controlled Trial.	Atheroscler Thromb. 2023 30(12):1849-1869.	Original Article
25	Endo Y, Sasaki K, Ikewaki K.	抗加齡血管内科	Residual Cardiovascular Risk Determined through Posthoc Analysis of the REAL-CAD Trial.	J Atheroscler Thromb. 2024 31(1):21-22.	Others
26	Endo Y, Sasaki K, Ikewaki K:	抗加齡血管内科	Cholesterol Efflux Capacity and Its Association with Oxidative Stress in Myocardial Infarction.	J Atheroscler Thromb 2024 May 2. doi: 10.5551/jat.ED262. Online ahead of print.	Others
27	Sasaki K, Tada H, Komatsu T, Terada H, Endo Y, Ikewaki K, Uehara Y	抗加齡血管内科	A New Case of Abetalipoproteinemia Caused by Novel Compound Heterozygote Mutations in the MTTP Gene without Fat or Vitamin Malabsorption.	J Atheroscler Thromb 2024 May 24 doi: 10.5551/jat.64730. Online ahead of print.	Case report
28	Nishida T, Ayaori M, Arakawa J, Suenaga Y, Shiotani K, Uto-Kondo H, Komatsu T, Nakaya K, Endo Y, Sasaki M, Ikewaki K:	抗加齡血管内科	Liver-specific Lxr inhibition represses reverse cholesterol transport in cholesterol-fed mice	Atherosclerosis 2024 doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2024.117578. Epub 2024 May 12. Online ahead of print.	Original Article
29	Endo Y, Sasaki K, Ikewaki K	抗加齡血管内科	Bridging the Gap Between the Bench and Bedside: Clinical Applications of High-density Lipoprotein Function.	J Atheroscler Thromb 2024 31(9):1239-1248	Others

30	Endo Y, Teramoto M, Arakawa J, Ukita S, Toshima G, Suenaga Y, Sasaki K, Ayaori M, Nakayama H, Inoue Y, Ikewaki K	抗加齡血管内科	Obstructive sleep apnea syndrome attenuated high-density lipoprotein function.	J Clin Lipidol 2024 in press	Original Article
31	Koga M, Sato M, NakagawaR et al	精神科	Molecular hydrogen supplementation in mice ameliorates lipopolysaccharide-induced loss of interest.	PCN Rep. 2024 Aug 21;3(3):e70000	Original Article
32	Yamazaki M, Nagamine M, Kitano M et al	精神科	Identifying factors related to stigma toward psychiatric illness and mental health services and attitudes of help-seeking among Japan Ground Self-Defense Force members.	J Psychiatr Res. 2023 Sep;165:241-247.	Original Article
33	Kazuki Kobayashi, Yoji Kishi, Yusuke Serizawa et al.	外科	Splenic Infarction Associated With Epstein-Barr Virus in an Adult With an Anatomic Anomaly: A Case Report.	Cureus 15 6 202306	Case report
34	Miyata Youichi, Naoto Yonamine, Ibuki Fujinuma, et al.	外科	Impact of Preoperative Tumor Size on Prognosis of Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinomas	Annals of Surgical Oncology 202309	Original Article
35	K Kouzu, H. Tsujiimoto, T Ishinuki, et al.	外科	The effectiveness of fascial closure with antimicrobial-coated sutures in preventing incisional surgical site infections in gastrointestinal surgery: a systematic review and meta-analysis	J Hosp Infect 202309	Review
36	Makoto Nishikawa, Junji Yamamoto, Takahiro Einama, et al.	外科	Preoperative Rapid Weight Loss as a Prognostic Predictor After Surgical Resection for Pancreatic Cancer	Pancreas 51 10 202311	Original Article

37	K Nagata, H Takiyama, K Tashiro, et al.	外科	Multidisciplinary management of locally recurrent rectal cancer with carbon ion radiotherapy followed by prophylactic removal of the irradiated bowel: a case report	Surgical Case Reports 10 1 202401	Case report
38	Nozomi Ito, Hironori Tsujimoto, Hiromi Miyazaki, et al.	外科	Pivotal role of myeloid-derived suppressor cells in infection-related tumor growth	Cancer Medicine 202403	Original Article
39	Ishida O, et al.	外科2	In vitro study on the effect of fibrinogen gamma-chain peptide-coated ADP-encapsulated liposome on postcardiopulmonary bypass coagulopathy using patient blood	2023 J Thrombosis and Haemostasis	Original Article
40	Nakagawa T, Horiuchi K, Kagami K, et al.	整形外科学講座	The alteration of LBX1 expression is associated with changes in parameters related to energy metabolism in mice	PLoS One. 2024;19(8):e0308445	Original Article
41	Kobayashi H, Ogawa H, Nakamura K, et al.	整形外科学講座	Fluoro HIP, a new software for intraoperative evaluation of the cup angles based on fluoroscopic images.	J Joint Surg Res. 2024;2(2):35-9.	Original Article
42	Isaji M, Kondo S, Nakagawa T. et al.	整形外科学講座	Dual and opposing role of retinoic acid receptor signaling in mesenchymal stem cells for tendon ossification in mice.	J Orthop Res. 2024. doi: 10.1002/jor.25966.	Original Article
43	Isaji M, Horiuchi K, Kondo S et al.	整形外科学講座	Suppression of TNF- α activity by immobilization rescues Mxk expression and attenuates tendon ossification in a mouse Achilles tenotomy model.	J Orthop Res. 2024. doi: 10.1002/jor.25906.	Original Article

44	Ishizaka T, Horiuchi K, Kondo S, et al.	整形外科科学講座	Eribulin mesylate induces bone mass loss by promoting osteoclastic bone resorption in mice.	Bone Reports. 2023;18. doi: 10.1016/j.bonr.2023.101693.	Original Article
45	Daisuke Tatsushima, Takaomi Kurioka, Kunio Mizutari, et al.	耳鼻咽喉科	Effects of Unilateral Vagotomy on LPS-Induced Aspiration Pneumonia in Mice.	Dysphagia.2023 Oct; 35(5):1353-1362	Original Article
46	Hiroya Yonaga, Kosuke Uno, Shinichi Tani, et al.	耳鼻咽喉科	Delayed postoperative bleeding associated with laryngopharyngeal necrosis following salvage endoscopic laryngopharyngeal surgery for recurrent adenoid cystic carcinoma of the tongue base after carbon.	Acta Oto-Laryngologica.2023 Sep; 8(1):133-138	Case report
47	Eiko Kimura, Masayuki Tomifuji, Kosuke Uno, et al.	耳鼻咽喉科	Evaluation of chronological changes in videofluorographic findings after transoral videolaryngoscopic surgery to reveal mechanism of dysphagia.	Auri Nasus Larynx.2023 Jun; 50(3):374-382	Original Article
48	Suyama Y, Soga S, Mikoshi A, et al.	放射線科	Initial experience of coaxial percutaneous liver biopsy with tract embolization using N-Butyl cyanoacrylate	Scand J Gastroenterol. 2023 Jul-Dec;58(11):1317-1320.	Original Article
49	Tamada S, Edo H, Sakima T, et al.	放射線科	A case of low-grade endometrial stromal sarcoma presented as an intramyometrial mass mimicking uterine leiomyoma on MRI	BJR Case Rep. 2023 Dec 18;10(1):uaad012	Case report
50	Morimura F, Edo H, Niwa T, et al.	放射線科	Idiopathic myointimal hyperplasia of mesenteric veins: radiological evaluation using CT angiography	BJR Case Rep. 2023 Dec 13;10(1):uaad009	Case report

51	Hashimoto T, Okuzawa M, Okuno S, et al.	皮膚科	Mast cell protease/protease- activated receptor-2 axis: another mechanism of pigmentation in cutaneous lesions of mastocytosis.	J Eur Acad Derm Venereol 37(4): e529-e531, 2023.	Letter
52	Suzuki H, Hashimoto T, Sugiura R, et al.	皮膚科	Disseminated cutaneous hyalohyphomycosis caused by <i>Fusarium proliferatum</i> in a patient with aplastic anemia.	J Dermatol50(6): e183- e184, 2023.	Letter
53	Yamamoto M, Hashimoto T, Okuzawa M,et al.	皮膚科	Pemphigoid nodularis associated with pembrolizumab in a lung cancer patient.	Eur J Dermatol 33(1): 53- 54, 2023.	Letter
54	Okuno S, Hashimoto T, Yamazaki Y, et al.	皮膚科	IL-31 and IL-31 receptor alpha in pemphigus: contributors to more than just itch?	J Dermatol 50(7): 927- 930, 2023.	Letter
55	Hashimoto T, Okuno S, Okuzawa M, et al.	皮膚科	Increased sensitivity to touch-evoked itch (punctate hyperknesis) in prurigo nodularis and type 2 inflammation: a cross-sectional pilot study.	J Eur Acad Derm Venereol 37(6): e789-e791, 2023.	Letter
56	Hirano Y, Horiguchi A, Ojima K, et al.	泌尿器科	Myofibroblast-dominant proliferation associated with severe fibrosis in bulbar urethral strictures.	Int J Urol. 2023 Jan;30(1):107-112.	Original Article
57	Horiguchi A, Shinchi M, Ojima K, et al.	泌尿器科	The Japanese Urological Association's clinical practice guidelines for urotrauma 2023.	Int J Urol. 2024 Feb;31(2):98- 110.	Original Article

58	Horiguchi A, Shinchi M, Ojima K, et al.	泌尿器科	Engraftment of Transplanted Buccal Epithelial Cells onto the Urethrotomy Site, Proven Immunohistochemically in Rabbit Model; a Feat to Prevent Urethral Stricture Recurrence.	Stem Cell Rev Rep. 2023 Jan;19(1):275-278.	Original Article
59	Takekawa K, Horiguchi A, Ojima K, et al.	泌尿器科	Urosymphyseal fistula development following treatment for radiation-induced urethral stenosis in three patients with prostate cancer.	IJU Case Rep. 2023 Dec 14;7(2):123-126.	Case report
60	Toge T, Takekawa K, Okamoto K, et al.	泌尿器科	A case of emphysematous intrascrotal abscess secondary to sigmoid coloseminal fistula.	Urol Case Rep. 2023 Oct 20;51:102596.	Case report
61	Kawamura K, Miyai K, Sato K, et al.	泌尿器科	Copy number gain of ACTN4 is associated with poor prognosis in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma.	Cancer Sci. 2023 Aug;114(8):3411-3422.	Original Article
62	Kobayashi H, Kosaka T, Nakamura K, et al.	泌尿器科	Genomic analysis of aggressive ductal adenocarcinoma of the prostate.	Cancer Med. 2023 Apr;12(7):8445-8451.	Original Article
63	Motegi S, Nagura K, Yoneda K, et al.	防衛医科大学校病院眼科	Clinical relevance of fibrin membranous structures in the intraphotoreceptor outer segment separation on spectral domain optical coherence tomography (SD-OCT) in initial-onset acute Vogt-Koyanagi-Harada disease. Acta Ophthalmologica.	Acta Ophthalmologica. 101(3):e286-e93. 2023	Original Article

64	Takeuchi M, Usui Y, Namba K, et al.	防衛医科大学校病院眼科	Ten-year follow-up of infliximab treatment for uveitis in Behcet disease patients: A multicenter retrospective study.	Frontiers in Medicine (Lausanne). 10:1095423. 2023	Original Article
65	Sato T, Okazawa R, Nagura K, et al.	防衛医科大学校病院眼科	Association between Systemic Factors and Vitreous Fluid Cytokines in Proliferative Diabetic Retinopathy.	J Clin Med. 12(6):2354. 2023	Original Article
66	Yoneda K, Takeuchi M, Yasukawa T, et al.	防衛医科大学校病院眼科	Anti-VEGF Treatment Strategies for 3 Subtypes of Neovascular Age-Related Macular Degeneration in a Clinical Setting: A Multicenter Cohort Study in Japan.	Ophthalmol Retina. 7:869-78. 2023	Original Article
67	Sato T, Taniguchi N, Nishio Y, et al.	防衛医科大学校病院眼科	Classification of Peripheral Blood Leukocyte Phenotypes and Serum Cytokines in Vogt-Koyanagi-Harada Disease before and after Glucocorticoid Therapy.	J Clin Med 12. 2023	Original Article
68	Tamura R, Kuinose M, Kurahashi R, Furuya M, Amako M.	リハビリテーション部	Outpatient Rehabilitation of a Patient with Functional Neurological Disorder Receiving Workers' Compensation Benefits: A Case Report.	Prog Rehabil Med. 2023 Dec 1;8:20230043.	Case report
69	Masato Tsuchiya, Toshihiro Kushibiki, Toshifumi Yamashiro 他	形成外科	Continuous negative-pressure wound therapy improves the survival rate of skin grafts and shortens the time required for skin graft survival	Skin Research and Technology 2024Jul;30(7)e13865	Original Article
70	Hisato Nagano, Naoaki Mizuno, Hideyuki Sato 他	形成外科	Skin graft with dermis and appendages generated in vivo by cell competition	Nature Communications 2024Apr29;15(1)3366	Original Article

71	Toshifumi Yamashiro, Yusuke Hachisu and Ryuichi Azuma	形成外科	Mixed lesion of traumatic pseudoaneurysm and pyogenic granuloma on a digit	Case Reports Plast Surg Hand Surg. 2023 Jun 29;10(1):222888	Case report
72	Toshifumi Yamashiro, MD, Izumi Yasutake, MD, and Ryuichi Azuma	形成外科	Acute Repair of Traumatic Lumbar Hernia with Fascia Lata Autograft A Case Report	International Journal of Surgical Wound Care 2023 4(4)155-159	Case report
73	Toshifumi Yamashiro 1, Momoko Yoshida 1, Junki Sato他	形成外科	Superficial Temporal Artery Island Flap Combined With Laser Hair Removal for Inadequate Skin Expansion Following Tissue Expansion: A Case Report of Congenital Melanocytic Nevus of the Forehead in an Adult	Cureus .2024 Mar10;16(3):e55920	Case report
74	Ijiri Atsuhiko, Seno Soichiro, Kiriu Nobuaki, Kato Hiroshi, et al	救急部	Anorexia Nervosa With Intermittent Fever Due to Diet-Induced Thermogenesis	Cureus 16(2):p.e53647, 2024.02	Case report
75	Seno Soichiro, Takashi Nagata*, Imai Kazuo, et al	救急部	Characteristics of the patients consulted with emergency medicine physicians at a large-scale COVID-19 vaccination center	American Journal of Disaster Medicine 18(1):p.17-30, 2023.10	Original Article
76	Taniguchi Hiroaki, Terayama Takeru, Seno Soichiro, et al	救急部	Delayed diagnosis of severe diabetic ketoacidosis associated with a sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor:	Oxf Med Case Reports 2023(7):p.omad074, 2023.07	Case report
77	Taniguchi Hiroaki, Seno Soichiro, Kiyozumi Tetsuro	救急部	Differentiating anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis seizures from psychogenic non-epileptic seizures	Visual Journal of Emergency Medicine 32:p.101756, 2023.07	Case report
78	Ijiri Atsuhiko, Terayama Takeru, Sugiura Hiroaki, et al	救急部	Invasive candidiasis presenting bronchiectatic cavity as chest radiological findings:	Radiology case reports 18(10):p.3467-3470, 2023.07	Case report

79	Asaga Takamasa, Hashimoto Kenichi, et al.	総合臨床部	Idiopathic hypersomnia with a video recording of a spontaneous sleep attack: A case report.	Medicine 103(7):Feb.2024 pp.e36782-e36782(オンライン)	Case report
80	Sekizawa Akinori, Hashimoto Kenichi, Ono Yosuke, et al.	総合臨床部	Conjunctival petechiae in infective endocarditis	Cleveland Clinic Journal of Medicine 91(1):Jan.2024 pp.20-21	Case report
81	Fujita Naoya, Ono Yosuke, Yamashita Keiko, et al.	総合臨床部	Proximal renal tubular acidosis complicated by severe hypocalcemia caused by malnutrition and inappropriate long-term use of zoledronate: A case report and literature review.	Internal Medicine 63(14): pp.2027-2033	Review
82	Tanaka Yuji, Hashimoto Kenichi, et al.	総合臨床部	Occurrence of adult-onset Still's disease after coronavirus disease 2019 BNT162B2 vaccination in a patient with ulcerative colitis: A case report and review of literature	Clinical Case Reports: Volume 11, Issue 12 December 2023 pp.e8298- e8298 (オンライン)	Review
83	Hashimoto Kenichi, Harada Naomi, Kimata Motohiro, et al.	総合臨床部	Increasing averaging beats improves the test accuracy on Holter-based late potentials in patients with myocardial infarction	Annals of Noninvasive Electrocardiology 28(6):Nov.2023 pp.e13089-e13089(オンライン)	Case report
84	Kobayashi Takahiro, Fujita Naoya, Sekizawa Akinori, et al.	総合臨床部	Unilateral leg edema and hydronephrosis in IgG4-related retroperitoneal fibrosis.	JMA Journal 2023 6(4): Oct.2023 pp.541-542	Case report
85	Fujita Naoya, Ono Yosuke	総合臨床部	Wandering pneumonia.	JMA Journal 2023 6(4): Oct.2023 pp.543-545	Case report
86	Ono Yosuke, Kobayashi Takahiro	総合臨床部	Medical history-taking by highlighting the time course: PODCAST approach.	Diagnosis 11(1):Sep.2023 pp.109-110	Case report
87	Hashimoto Kenie hi, Harada Naomi, Kimata Motohiro, et al.	総合臨床部	Diurnal variation of and optimal time to measure Holter-based late potentials to predict lethal arrhythmia after myocardial infarction.	Medicina (Kaunas) 59(8): May.2023 pp.1460-1460	Case report

88	Kobayashi Takahiro, Ono Yosuke	総合臨床部	Annular erythema on the cheeks and ear lobes in Sjögren's syndrome.	The American Journal of Medicine 2023 136(10):May.2023 pp.e193-e194 (オンライン)	Case report
89	Kobayashi Takahiro, Ono Yosuke, et al.	総合臨床部	Osler-Weber-Rendu Disease: Unexpected Cause of Anemia	Internal Medicine 62(6):May.2023 pp.955-956	Case report
90	Fujita Naoya, Ono Yosuke, Yamashita Keiko, et al.	総合臨床部	Scintigraphic findings in FGF23-related hypophosphatemic osteomalacia.	JMA Journal 2023 6(2):May.2023 pp.214-215	Case report
91	Fujikura Y, Somekawa K, Manabe T, et al.	医療安全・感染対策部	Aetiological agents of adult community-acquired pneumonia in Japan: systematic review and meta-analysis of published data	BMJ Open Respir Res. 2023 Sep;10(1):e001800	Original Article
92	Fujikura Y, Ohno T, Seki M, et al.	医療安全・感染対策部	Is administration of anti-MRSA drugs recommended for patients with pneumonia when MRSA is isolated from respiratory specimens? A systematic review and meta-analysis	J Infect Chemother. 2024 Jan;30(1):88-91	Original Article

92件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 申請手続、委員会審査及び分科会審査手続、審査結果の通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年8回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年0回 事前確認によって明らかに利益相反が認められないと判定されたため

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 研究倫理eラーニングコース（日本学術振興会）受講	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	80人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
足立 健	内科	教授	35年	
穂苅 量太	内科	教授	33年	
川名 明彦	内科	教授	40年	
木村 文彦	内科	教授	40年	
池脇 克則	内科	教授	40年	
上野 秀樹	外科	教授	34年	
戸田 裕之	精神科	教授	25年	
今井 耕輔	小児科	教授	27年	
堀内 圭輔	整形外科	教授	24年	
和田 孝次郎	脳神経外科	教授	37年	
佐藤 貴浩	皮膚科	教授	39年	
伊藤 敬一	泌尿器科	教授	32年	
高野 政志	産科婦人科	教授	32年	
竹内 大	眼科	教授	35年	
荒木 幸仁	耳鼻咽喉科	教授	27年	
新本 弘	放射線科	教授	40年	
池田 健彦	麻酔科	教授	35年	
清住 哲郎	救急部	教授	32年	
東 隆一	形成外科	教授	28年	
松熊 晋	検査部	教授	38年	
廣岡 伸隆	総合臨床部	教授	23年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	80人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
足立 健	内科	教授	35年	
穂苅 量太	内科	教授	33年	
川名 明彦	内科	教授	40年	
木村 文彦	内科	教授	40年	
池脇 克則	内科	教授	40年	
上野 秀樹	外科	教授	34年	
戸田 裕之	精神科	教授	25年	
今井 耕輔	小児科	教授	27年	
堀内 圭輔	整形外科	教授	24年	
和田 孝次郎	脳神経外科	教授	37年	
佐藤 貴浩	皮膚科	教授	39年	
伊藤 敬一	泌尿器科	教授	32年	
高野 政志	産科婦人科	教授	32年	
竹内 大	眼科	教授	35年	
荒木 幸仁	耳鼻咽喉科	教授	27年	
新本 弘	放射線科	教授	40年	
池田 健彦	麻酔科	教授	35年	
清住 哲郎	救急部	教授	32年	
東 隆一	形成外科	教授	28年	
松熊 晋	検査部	教授	38年	
廣岡 伸隆	総合臨床部	教授	23年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 塩谷 彰浩
管理担当者氏名	病院運営課長 東山 玲児、材料部長 伊藤 敬一、 医療情報部長 岸 庸二、薬剤部長事務代理 井上 博章、 医療安全推進室長 高畑 りさ、感染対策室長 藤倉 雄二

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第二項に掲げる事	病院日誌	病院運営課
		各科診療日誌	病院運営課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	電算室 (サーバー)
		看護記録	電算室 (サーバー)
		検査所見記録	電算室 (サーバー)
		エックス線写真	電算室 (サーバー)
		紹介状	電算室 (サーバー)
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電算室 (サーバー)	
病院の管理及び運営に関する諸記録	に 規則第二十二條の三第三項	従業者数を明らかにする帳簿	病院運営課
		高度の医療の提供の実績	病院運営課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	病院運営課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院運営課
	掲 規則第一條の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院運営課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	材料部
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	材料部
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	材料部
	第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	材料部

文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。（感染対策室）

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全推進室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室
		職員研修の実施状況	医療安全推進室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室
管理者が有する権限に関する状況	病院運営課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院運営課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院運営課		

黒字：各課室に聴き取り（感染対策室、薬剤部）

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 塩谷 彰浩
閲覧担当者氏名	各診療科部長、病院運営課長、材料部長、 薬剤部長事務代理
閲覧の求めに応じる場所	・病院第3会議室
閲覧の手続の概要 閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は初期録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： (1) 安全管理システムの構築 (2) 医療従事者の研鑽 (3) インシデント・アクシデントレポートの推進 (4) 安全管理組織の充実 (5) 職員教育・研修の充実 (6) 医療事故発生時の対応方針 (7) 患者相談窓口の設置 (8) 高難度新規医療技術等に関する事項 (9) 未承認新規医薬品等に関する事項 (10) 医療安全管理マニュアルの改訂 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 ((有) 無) ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： (1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関する事 (2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関する事 (3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関する事 (4) 医療事故発生時の対応要領に関する事 (5) 安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関する事 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて)： (1) 新着任者、中途採用者に対する当院の医療安全管理体制についてのオリエンテーション (全職種) <u>35回/年</u> (2) 新入職者 (看護師) に対するオリエンテーション <u>6回/年</u> (3) 産児休業後復帰者に対するオリエンテーション <u>10回/年</u> (4) 当院におけるリスクマネジメントについて (初任実務研修医、専門研修医、研究科) <u>計7回/年</u> (5) 看護管理者のための安全管理教育 <u>1回/年</u> (6) 看護部研修生に対するオリエンテーション <u>4回/年</u> (7) 看護学生に対する医療安全管理体制についての卒前教育 <u>1回/年</u> (8) 全職員対象医療安全・感染対策講習 <u>2回/年</u> 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 院内全死亡例の報告および死亡例カンファレンス実施の義務化
 - (2) オカレンス（合併症等）事例に係わる報告の義務化
 - (3) 院内における暴言・暴力に係わる報告制度
 - (4) 安全対策プロジェクトチームにおけるインシデント事例の再発防止策の検討及び検証のための院内ラウンドの実施
 - (5) 上記1)～4)の安全管理委員会、部長会での情報の共有と周知の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、サーベイランスによる院内の感染症発生状況の把握と報告、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内感染対策に関すること (2) 院内感染管理体制に関すること (3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 43 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> (1) 新採用者、中途採用者に対するオリエンテーション (2) 産前産後及び育児休業後復帰者に対するオリエンテーション (3) 看護部研修生に対するオリエンテーション (4) 初任実務研修医、専門研修医、研究科医師に対するオリエンテーション (5) 新任看護管理者に対する感染管理研修 (6) 抗菌薬適正使用への取り組み (7) 全職員対象医療安全・感染対策講習会 (8) 看護部クリニカルラダーⅢ「感染管理」研修 (9) 看護師に対する感染防御の知識（適性抗菌薬使用、トピック） (10) リンクナースに対する感染対策策研修 (11) 第一種感染症病症対応要員（看護師・放射線技師・検査技師）対象個人防護具着脱研修 (12) 清掃委託業者に対する感染対策研修 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有 無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付 (2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌や新型コロナウイルス等に関する職員教育の実施 (3) ATP拭き取り検査器等を使用した可視化を用いたラウンド (4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化 (5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック (6) 蓄尿の届け出、許可制の継続 (7) 携帯用手指衛生剤の継続 (8) 抗菌薬使用状況の把握、抗菌薬適正使用の推進 (9) 血液培養サーベイランスの実施 (10) デバイスサーベイランスの実施（全部署） (11) 手術部位感染（SSI）サーベイランスの実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年28回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 新規採用・長期休業復帰者オリエンテーション：薬剤の取り扱い（22回） (2) 初実、専門研修医オリエンテーション：オーダーリングシステム教育（3回） (3) 初実研修医対象フライデーレクチャー「麻薬の処方と管理の疑問に答える」（1回） (4) 西8看護職員対象「医療用麻薬について」（1回） (5) 全職員対象：医薬品副作用救済制度について（1回） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医薬品選定 (2) 医薬品管理 (3) 調剤 (4) 薬剤管理指導業務 (5) 医薬品情報 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） 【収集方法】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 製薬会社MRからの情報収集 (2) PMDA、日本医療機能評価機構HPからの情報収集 【周知方法】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内メール、文書配布、医療端末における「掲示板」への掲載、DIニュース (2) 院内委員会報告 【その他の改善のための方策の主な内容】 <ol style="list-style-type: none"> (1) オーダリングおよび薬剤部門システムを利用した薬用量、重複投与、相互作用チェックの設定 (2) 取り間違い防止のための薬品棚の表示および調剤手順の見直し (3) 使用期限チェックも見直し (4) 不活動医薬品の見直し ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 未承認新規医薬品等評価委員会で22件承認（適応外21件、禁忌使用0件、院内製剤1件） 例）非小細胞肺癌に合併した髄膜癌腫症に対する注射用メソトレキセート5mgの適応外使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 93 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： (1) 看護職員初任者研修：人工呼吸器・輸液シンリジポンプ・チューブドレーン（各2回・年6回） (2) 研修医オリエンテーション：人工呼吸器・除細動器・輸液シンリジポンプ・その他（年2回） (3) 放射線技師：高エネルギー放射線発生装置研修（年2回） (4) 全職員：人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、その他（年2回） (5) 新規採用・休業明け医療機器定期研修（入再職時26回） (6) 機器を新規購入時に関係者へ研修（導入時研修42回） (7) 機器の使用方法など臨時的に研修（臨時研修13回） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： (1) 人工心肺装置及び補助循環装置、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置（メーカー定期点検） (2) 人工呼吸器、除細動装置、閉鎖式保育器【機種によりメーカーまたは、院内定期点検（臨床工学士または委託職員が専用のテスターを使用し点検実施）】 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 定量的軸索反射性発汗検査QSARTに使用する発汗計SKN-2000電源装置CL-5.0はそれぞれ未承認であるが、高難度新規医療技術等実施許可を得て使用している。電源装置CL-5.0に関しては接続部分などでやけどが起こる可能性があるため、製作会社へ2度ほど改良後、高難度新規医療技術等評価委員会で承認を得た。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療端末掲示板から閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
<p>・ 責任者の資格 (医師)・ 歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理部門の管理を行うとともに、1回/週 管理者に対して医療安全管理部門とともに安全に関する報告を実施している。また、安全管理委員会委員長として、委員会を開催し、各責任者からの報告を受け指導を行うとともに病院部長会において、委員会の報告を実施している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は医薬品情報室を活用し、製薬会社医薬品情報担当者、医薬品安全対策情報(DSU)、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDA、日本医療機能評価機構等のHPから情報の収集と整理の報告を受ける。またDIニュース等を毎月定期的に薬剤師が病棟へ重要点を説明して文書配布、さらに医療従事者全員にメール配信、医療端末掲示板への掲示し、院内周知を図る。イエローレター、ブルーレター等は、患者の投薬歴を調査し、関連診療科へ迅速かつ直接、情報提供を行う。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は未承認等医薬品の取り扱いに関して事務局を治験管理室に設置して薬剤部各部署および診療科からの適応外・禁忌に使用する情報を収集し報告を受ける。未承認等医薬品の使用について審議が必要となった場合は、未承認医薬品等評価委員会委員長に報告し、委員会を開催し使用の適否を審議する。また承認された事例は薬事委員会、安全管理委員会へ報告、医療端末掲示板に掲示し院内周知を図るとともに承認後の臨床使用成績についても情報を収集する。また必要に応じ手順の見直しを行っている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有)・ 無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属薬剤部 , 職種 薬剤師) (所属 : , 職種)</p> <p>(所属 : , 職種) (所属 : , 職種)</p> <p>(所属 : , 職種) (所属 : , 職種)</p> <p>(所属 : , 職種) (所属 : , 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有 無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) 無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>： IC・診療録管理責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、ICについて規定された事項につき監査を実施、適宜不足事項に関する指導を実施している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有 無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>IC・診療録記録責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、各々の規定された項目につき監査を実施、監査状況に応じて指導を行っている。</p> <p>また、初任実務研修医に対しては、新着任者教育の際に診療録記載マニュアルを用いて教育を実施している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（３）名、兼任（３）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（２）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち臨床検査技師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（１）名</p> <p>うち事務職員：専従（ ）名、専任（２）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>（１）事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>（２）患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>（３）事故時の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>（４）医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>（５）医療安全に資する診療内容のモニタリング及び職員の医療安全の認識の状況の確認</p> <p>（６）医療の安全に係る教育・研修の企画及び運営に関すること。</p> <p>（７）医療安全に係るマニュアル類の整備に関すること。</p> <p>（８）医療安全文化の醸成に関すること。</p> <p>（９）前各号に掲げるものの他、医療安全対策の推進に関すること。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（<u>13</u>件）、及び許可件数（<u>12</u>件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）</p> <p>・活動の主な内容：</p>	

(1) 高難度新規医療技術の提供の申し出の受領 (2) 高難度新規医療技術評価委員会の開催 (3) 高難度新規医療技術承認後の実施事例のモニタリング ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (32 件)、及び許可件数 (22 件) ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 未承認新規医薬品等の提供の申し出受領 2) 未承認新規医薬品等評価委員会の開催 3) 未承認新規医薬品等評価委員会における審議結果報告、記録の作成・保管 4) 未承認新規医薬品等評価委員会の実施事例のモニタリング ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 393 件 ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 20 件 ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 安全管理委員会において全死亡症例の報告を実施。全死亡例における死亡例カンファレンス実施状況の各診療科別の報告、病理解剖実施率、A i 実施率について報告。全死亡症例の概要についても報告を行い、安全推進室にて検討を実施したについて報告を行い、必要に応じて審議を行っている。事例

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="radio"/> 有 (病院名：三重大学医学部附属病院) ・ 無) ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="radio"/> 有 (病院名：香川大学医学部附属病院) ・ 無) ・ 技術的助言の実施状況 特に大きな改善を求めるような指摘事項はなかったが、特定機能病院として病棟専従薬剤師設置の必要性和薬剤師の人材不足が指摘されたため、薬剤師の人員確保に関しては引き続き要求を継続していく。
--

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
事務部病院運営課に「医事相談窓口」を設置

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
医療安全・感染対策講習会を2回／年 実施。
埼玉県における感染症法第44条の3第2項に基づく協力要請に伴い、対面による講習とWEB講習により全職員の受講を確認。

【令和5年度実績】 第1回 令和5年9月27日 第2回 令和6年1月24日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

管理者	:	日本医療機能評価機構	
		「2023年度特設機能病院管理者研修」	2024年2月6日
医療安全管理責任者	:	日本医療機能評価機構	
		「2023年度特設機能病院管理者研修」	2024年2月26日
医薬品安全管理責任者	:	日本医療機能評価機構	
		「2023年度特設機能病院管理者研修」	2024年1月9日
医療機器安全管理責任者	:	日本医療機能評価機構	
		「2023年度特設機能病院管理者研修」	2024年1月9日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構の「病院機能評価」を受審し「認定」取得に向けた取り組みを実施。現在、最終審査を受審し機構内での審査を経て結果が通知される見込み。

令和5年 5月22日～同年5月24日	「訪問審査」受審	結果「認定保留」
令和5年11月 8日	「補充的審査」受審	結果「認定留保」
令和6年 9月11日	「再審査」受審	結果「審査中」

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・評価を踏まえ講じた措置

「C評価（一定の水準に達していない）」と判断された評価項目について、それぞれ改善対応責任者を定め、体制・手順の整備を行ったことを評価された。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

- 1 医師免許を有している者

- 2 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者

高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、人格が高潔で学識が優れ必要な医療安全管理業務に従事した経験、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を有すること

- 3 病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者

防衛医科大学校病院又は同病院に準じる規模の病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有すること。

- 4 防衛医科大学校の任務等を果たすために必要な資質・能力

防衛医科大学校の任務や役割を理解し、職務遂行にあつては、同校の方針にしたがい、目標を達成しようとする強い意思とこれらを継続的かつ確実に推進する強力なリーダーシップを有すること

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 無)

- ・ 公表の方法

防衛医科大学校病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・ <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の間係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<p>・ 合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院の管理運営に関すること。 (2) 病院の医療安全管理及び訴訟に関すること。 (3) 臨床教育に関すること。 (4) 病院の手術及び医療材料に関すること。 (5) 病院における諸施策の評価に関すること。</p> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況 議事録の回覧</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法 防衛医科大学校病院運営会に関する規則（平成17年防医大病院規則第2号）として規定し、防衛医科大学校法規類集に掲載するとともにインターネットでも閲覧可能としている</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ((有)・無)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
塩谷 彰浩	○	医師	病院長
木村 文彦		医師	副院長
辻本 広紀		医師	副院長
小笠原 誠		事務	病院長補佐
井上 博章		薬剤師	病院長補佐
村松 陽子		看護師	病院長補佐
穂苅 量太		医師	病院長補佐
伊藤 敬一		医師	病院長補佐
清住 哲郎		医師	病院長補佐
池田 健彦		医師	病院長補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）として公表しており、インターネットで閲覧可能である。
- ・ 規程の主な内容
防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）第13条第5項において、「病院長は、学校長の命を受け、院務を掌理する。」と規定されており、病院に係る業務のすべてを統括し責任を有している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
防衛医科大学校病院においては、管理運営担当と医療安全担当の2名の副院長及び7名の院長補佐を任命し管理者たる病院長をサポートするとともに、病院事務部に病院企画調整官を設け、病院に係る各種企画業務等の補佐を実施している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
防衛医科大学校病院の副院長、院長補佐、各部長等に対し、可能な範囲で、人事院や防衛省本省で実施する管理者研修等を受講させている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p style="padding-left: 20px;">下記の項目について監査を実施、状況に応じて実地での確認を行う</p> <p>(1) 令和 5 年度医療安全管理体制に関すること。</p> <p>(2) 令和 4 年度インシデントレポート集計結果に関すること。</p> <p>(3) 病院機能評価受審結果（訪問審査）に関すること。</p> <p>(4) 「令和 5 年度医療法第 25 条第 3 項立ち入り検査」の受検結果に関すること。</p> <p>(5) 病院機能評価受審結果（補充的審査）に関すること。</p> <p>(6) 「令和 5 年度医療安全・質向上のための相互チェック及び特定機能病院相互のピアレビュー」実施結果に関すること。</p> <p>(7) 医師の働き方改革に向けての取組状況に関すること。</p> <p>(8) 手術室ラウンドに関すること。</p> <p>(9) その他医療安全に関すること。</p> <p style="padding-left: 20px;">監査委員は、上記の項目を口頭で説明を受け実地（医療等の現場）での確認を行う。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p style="padding-left: 20px;">防衛医科大学校病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
根本 孝一	医療法人藤原会 藤原医院顧問	○	医療に関する見識を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
島戸 圭輔	二番町法律事務所 (弁護士)		法律に関する見識を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
安達 秀夫	所沢市薬剤師会 顧問		医療に関する見識を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
大館 千歳	国立障害者リハビリテーションセンター病院看護部長		医療に関する見識を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
宮田 義久	一般財団法人自衛隊援護協会職員		医療を受ける者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する見識を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること。」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられている。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

防衛医科大学校病院ホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられていることから、別途会議体を設けることは要しない。 ・ 会議体の実施状況（ 年1回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）（ 年1回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 防衛医科大学校病院ホームページ 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院開設者による実地検査			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
高城 亮	防衛省人事教育局衛生官		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
齋藤 憲士	防衛省人事教育局衛生官付企画官		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
杉山 元	防衛省人事教育局衛生官付防衛部員		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
中村 友香	防衛省人事教育局衛生官付専門官		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
塩谷 彰浩	防衛医科大学校病院長		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
小笠原 誠	防衛医科大学校病院事務部長		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
荒木 幸仁	防衛医科大学校病院医療安全感染対策部長		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
東山 玲児	防衛医科大学校病院事務部病院運営課長		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
藤倉 雄二	防衛医科大学校病院医療安全感染対策部 感染対策室長		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
高畑 りさ	防衛医科大学校病院医療安全感染対策部 医療安全推進室長		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
安藤 正恵	防衛医科大学校病院材料部副部長		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
山下 慎一	防衛医科大学校病院事務部病院運営課 課長長補佐		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・ 通報件数（年 件）
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）
- ・ 周知の方法
病院安全管理委員会より、リスクマネージャー全体会議及び病院部長会を通じて周知